

# 共同研究成果報告書

作成日 平成 22 年 6 月 23 日

研究課題名	和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究					
所属研究部局 ・職名	文学資源研究系 ・教授		ふりがな	やまさき まこと		
			研究代表者氏名	山崎 誠		
研究形態	1. 基幹研究 2. 共同研究 (3.) プロジェクト研究 4. その他 ( )					
研究の位置づけ	(1.) 中期目標・中期計画に記載 2. その他 ( )					
研究期間	平成 16 年度 ～ 平成 21 年度 6 年計画の第 6 年次					
研究経費	年 度	研究経費	経 費 内 訳 (単位：円)			
			物品費	旅 費	謝金等	その他
	平成16年度	1,165,929	501,879	0	664,050	0
	平成17年度	1,925,692	941,980	4,080	962,350	17,282
	平成18年度	987,518	248,110	2,180	728,650	8,578
	平成19年度	980,000	583,710	11,520	345,800	38,970
	平成20年度	960,273	619,703	157,220	183,350	0
	平成21年度	968,428	0	0	550,528	417,900
総 計	6,987,840	2,895,382	175,000	3,434,728	482,730	

研究組織				
氏名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役割分担	エフォート (%)
(研究代表者) 山崎 誠	文学資源研究系・教授	古代中世学問史の研究	研究総括、古代中世学問と漢籍	15
(研究分担者) 入口 敦志	文学資源研究系・助教	近世文学	近世文学における漢籍の受容	15
陳 捷	アーカイブズ研究系・准教授	日中書物交流史	日中書物交流の研究・和刻本研究 文献目録の作成	15
長澤 孝三	元 帝京大学・文学部・専任講師	書誌学	和刻本データベースの作成	5
堀川 貴司	鶴見大学・文学部・教授	日本文学	日本漢文学と和刻本	5
高津 孝	鹿児島大学・法文学部・教授	中国文学	文学関係の和刻本漢籍の研究	5
川原 秀城	東京大学・大学院人文社会系研究科・教授	中国思想	思想関係の和刻本漢籍の研究	5
陳 先行	上海図書館・研究館員（教授） （当館外国人研究員（客員教授））	日本文学		
(研究補助者) 王 曉瑞	元 国文学研究資料館・文学資源研究系・リサーチアシスタント		和刻本データベースの作成、中国 近世文学書の和刻本の研究補助	10
合計 9名				

## 【概要（背景と目的）】

- ・「背景」と「目的」は、概要の中に入れて記入している場合は、特立して記す必要はありません。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。
- ・【全体の研究成果】等他の記入欄と同内容のことを書かざるを得ない場合でも、他の記入欄と数行にわたって同一内容（成果出版物の目次を記す等）になるような記入はしないで下さい。

「和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究」プロジェクトは、国文学研究資料館の研究中期目標に掲げる、Ⅱ．教育研究等の質の向上に関する目標1．研究に関する目標(1)研究水準及び研究の成果等に関する目標に関連し、先進的な研究拠点に相応しい基盤領域として計画されたプロジェクトであり、和刻本漢籍の調査・研究及び研究のための基本情報の収集を中心とするものである。平成16年度より開始され、山崎誠が研究代表者である。

和刻本は、日本文学の形成と展開を考究する上で必要不可欠な重要な資料群であるにも関わらず、従来の日本文学研究においては網羅的な研究がなされてこなかった。この分野の研究は、一部の研究者にその必要性が強く認識されてきているが、実際には長沢規矩也『和刻本漢籍分類目録』（1976年）『和刻本漢籍分類目録補正』（1980年）などが刊行されて以来、長い停滞にあるとあってよい。長沢氏の『和刻本漢籍分類目録』では所在情報が明かされていないため、実物の比較調査が困難である。また鈔刻情報（出版事項、即ち、いつ、どこ、だれが、どこで、どう〈出版種別〉した）、序跋情報など研究のための重要なデータが盛られていない点にも不満があった。長沢氏の『和刻本漢籍分類目録』が出版されてから既に30年が過ぎ、訂正や補うべき点は多い。この間に国書、漢籍ともに研究が進展しており、現在のレベルで和刻本を整理し、再評価することの意義は大きい。

本研究は和刻本漢籍の調査・研究及び研究のための基本情報の収集を中心とするものであり、特に日本における漢籍の受容状況の研究及び、五山版・近世初期刊本の書誌情報の整備を中心として研究を行うものである。五山版・近世初期刊本の書誌情報の台帳の作成、和刻本『和刻本研究文献目録』の編纂の他、長沢氏の『目録』に①序跋情報②訓点（校点）情報③行格情報④底本情報の四つを付加してテーターを増補する「和刻本漢籍データベース」を作成し、大学・地域を超えた研究拠点での計画的な研究活動により、和刻本漢籍の研究基盤を整備することを目指してきた。途中でメンバーの転出によって構成員の入れ替えがあり、また、平成19年度から館外から和刻本書誌学、日本漢文学、中国思想、中国文学などの方面からの専門家に正式に参加していただき、研究形態は共同研究に変更したことにより、研究目標も五山版・近世初期刊本の書誌情報の整備、和刻本漢籍データベースの作成などから、日本における漢籍の受容状況に関する研究などを加えるようになった。

具体的な方法としては、『和刻本漢籍分類目録』をベースとしたデータベース台帳を作成し、そのうち、館蔵とマイクロフィルムによって収集した和刻本漢籍から、特に重要と思われる刊行に関する情報、すなわち、序・跋の有無とその刊年と著者、刊行年と刊行者などについての情報をデータベースに付加し、利用価値の高いものとするを目的とした。さらに、それを使うことによって、上記和刻本研究にも資するところ大といえる。

また、年度ごと定期的に共同研究会を開催し、共同研究員の研究成果を発表するとともに、相互の意見交換によって、よりいっそう研究の成果を深めた。

## [全体の研究成果]

- ・この欄に、全ての出版物を並べて記入しないようにして下さい。出版物の一部分を記入することは構いませんが、成果物の一覧は、[成果出版物・論文等]の欄に記入して下さい。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。

### 1、和刻本漢籍総合目録データベースの作成と公開

長澤規矩也編『和刻本漢籍分類目録』をデータ化し、これを基として、当館所蔵の和刻本漢籍、また当館がマイクロフィルムによって収集してきた各所蔵機関に所蔵される和刻本漢籍の序・跋・刊行年・刊行者等の基礎情報を付加した。その情報は広く学界と一般の利用に供するために、当館ホームページ上に、「和刻本漢籍総合目録データベース」として公開した。これによって、単なる和刻本の分類目録というだけでなく、確実な所在情報に基づくデータが利用できるようになった。

### 2、和刻本研究の展開

構成員のそれぞれの専門から和刻本の形態、内容などに関する研究を進める同時に、国内外の書誌学、日本漢文学、中国思想、中国文学などの方面からの専門家による共同研究会の開催に努め、年度ごとに共同研究の参加者を中心とした研究会を開きながら、2007年度と2009年度に（科研費特定領域寧波研究「出版文化班」との共催で国際シンポジウムを開催した。日本、中国、台湾およびアメリカ、フランスからの研究者とともに、東アジアの出版文化史という広い視野において和刻本の特徴と価値を再認識し、多くの収穫を得た。

### 3、研究成果の発表

当研究6年間の成果の集大成として、研究成果報告『和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究』（平成22年2月、384ページ）を発行し、定例の共同研究会、シンポジウム、各共同研究員による研究成果と和刻本漢籍総合目録データベースを一覧表にして収録した。また、これ以外に、各共同研究員によって国内外の雑誌・単行本等に研究成果を発表している。これによって、広く和刻本研究の成果を公開するとともに、学界の和刻本研究に寄与した。

## 【成果出版物・論文等】

- ・年次順に分けずに、【出版物】、【論文】、【その他（学会発表）（公開データベース）等】の区分で記入して下さい。記入内容は、出版物の場合は、書名（平成□□年□月、□□書房、全□□□頁）、内容（執筆者名、論文名）とし、論文の場合は、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、最初と最後の頁、発表年月、査読の有無を原則とします。
- ・論文名は「 」に、書名・雑誌名は『 』に入れるのを原則とします。
- ・論文名や学会発表、データベース名は、一件ごとに「・」や①②③…を使って区別しやすいように記入して下さい。
- ・データベースは公開されているもののみ記載して下さい。

## 【論文】

『風起雲揚首届南京大学域外漢籍研究国際學術検討会論文集』所収「《太公家教》源流考」、山崎誠、中華書局 2009.10

「唐繪屏風の源流北魏司馬金龍墓出土屏風画の主題と構成」、山崎誠、国文学研究資料館紀要 2010.3

「米沢藩旧蔵宋版三史をめぐる日中文化交流について」、陳捷、『東アジア出版文化研究—にわがみ』12 (pp. 357-368) (2004) 査読無

「一位日本武士眼中的中国」、陳捷、『中日文史交流論集—佐藤保先生古稀記念』所収（上海辞書出版社、2005年9月）、pp. 53-85、査読無

「岸田吟香的樂善堂在中国的圖書出版和販売活動」、陳捷、『中国典籍与文化』2005年第3号（総54期） pp. 46-59 査読有

「日本入宋僧南浦紹明與宋僧詩集『一帆風』」、陳捷、『中国典籍与文化論叢』, 9 : 15 (pp. 85-99) , (2007.4) 査読有

「中国人による百万塔陀羅尼の記録について」、陳捷、『百万塔陀羅尼の研究—静嘉堂文庫所蔵本を中心に』（汲古書院、東京）、13 (pp. 190-202) , (2007.11) 査読無

「關於日本最古の印刷品「百万塔陀羅尼」西伝中国的記録」、陳捷、『東亞文献研究資源論集』（台湾学生書局、台北）、36 (pp. 189-224) , (2007.12) 、査読有

「明治前期における日中間の民間往来について—岸田吟香を通して」、陳捷、関西大学アジア文化交流センター、『近代日中関係人物史研究の新しい地平』（雄松堂出版、東京）、30 (pp. 57-86) , (2008.2) 査読無

「彫り師木村嘉平と筆意彫り」、陳捷、『アジア遊学』（勉誠社、東京）、109 : 13 (pp. 168-180) , (2008.4) 査読無

「黄遵憲与日本漢方医学保存運動」、陳捷、『中国典籍与文化』2009年第2期（総69期）、pp. 35-44、2009年4月、査読有

「一八七〇—八〇年代における中国書画家の日本遊歴について」、陳捷、『中国—社会と文化』第24号、pp. 161-178、2009年7月、査読有

「日本における宋版との出会い」、陳捷、高田時雄編『漢字文化三千年』、pp. 343-365、臨川書店、2009年7月、査読無

「關於『羅振玉手札』所収羅振玉致楊守敬書札的考察」、陳捷、『文献』、2009年第3期、pp. 171-181、2009年10月、査読有

「幕末における日中民間交流の一例—知られざる日本人八戸弘光について」、陳捷、『中国哲学研究』第24号（佐藤慎一教授記念号）、pp. 179-211、2009年11月、査読有

「恋の七五調」、入口敦志、『本文研究』、48 (pp. 1-48) (平16)

「引用書目からみる中世末から近世初期にかけての学問体系」、入口敦志、『文芸』、3 : 7

(pp. 6-42) (平17)

「連歌御由緒考—山田通考に至るまで—」、入口敦志、『文事の地域史』(神社史料研究会叢書第4輯, 文閣出版), 2(pp. 317-358) (平成17)

「データベース共有におけるデータマッピングの事例的研究」、入口敦志、『古典学のオントロジー』、3: 13(pp. 52-64) (平18)

「武家の荘厳—唐破風—」、入口敦志、『文化の往還』News Letter, 1: 19(pp. 5-23) (平19)

「二ノ丸権現様興廢記」、入口敦志、『調査研究報告』、28: 22(pp. 29-50) (平20)

「模倣と変容—『帝鑑図説』受容発端—」、入口敦志、『江戸文学』、38: 21(pp. 22-42) (平20)

「台北における日本の古典籍」、入口敦志、『アジア遊学』69、pp. 116-122、2004年 査読有

「将軍の連歌」、入口敦志、『江戸文学』31、pp. 32-54、2004年 査読有

「稲荷社と柳宮連歌」、『朱』48、pp. 115-129、2005年 査読無

「前田綱紀と加賀藩の能—前田綱紀書簡抄—」(共著)、入口敦志、『演劇研究センター紀要』27、pp. 73-89、2006年 査読無

『松江近体詩』、堀川貴司、太平文庫 51、太平書屋、2004年 査読無

「懐古詩歌帖 翻刻と解題」、堀川貴司、松尾葦江編『海王宮—壇之浦と平家物語』、三弥井書店、pp. 53-88、2005年 10月 査読無

「こぼれ咲きの花々—禅林ゆかりの小作品群—」、堀川貴司、『国文学 解釈と教材の研究』第50巻第10号、pp. 108-113、2005年 10月 査読無

「中世から近世へ—漢詩文、漢籍をめぐって—」、堀川貴司、『中世文学』50、pp. 22-27、2005年 査読有

「中世の漢文学—『和漢朗詠集』と『錦繡段』を手がかりに—」、堀川貴司、『東アジア比較文化研究』第5号、pp. 43-55、2006年 8月 査読無

「一休宗純『自戒集』試論—詩と説話のあいだ—」、堀川貴司、小島孝之編『説話の界域』笠間書院、pp. 69-82、2006年 7月 査読無

「日本中世禅林における三体詩の受容—二つの注をめぐって—」、堀川貴司、『駒澤大學禅研究所年報』第17号、pp. 19-29、2006年 3月 査読無

「山岡浚明と『示蒙抄』—書物の分類をめぐって—」、山田直子、『文化資源学』2、pp. 73-80、2004年、査読無

## 【展示・シンポジウム】

(展示)

タイトル、会期(期間)、会場、入場者概数

(シンポジウム・講演会)

タイトル、期日、会場、参加人数概数、個別発表者名・講演者名、個別発表・講演タイトル

展示に付随した講演などは、頭に「\*」を付して展示の項に註記しても構いません。

(シンポジウム)

### 1, 「中国東南部の出版文化と日本の出版文化」国際シンポジウム

(「和刻本プロジェクト」と科研費特定領域寧波研究「出版文化班」との共同主催)

期日 2007年12月13日

会場 国文研・中会議室

司会兼通訳 陳捷

① 『『帝鑑図説』の日本での受容』(入口敦志、国文研助教)

② 「17世紀東アジアを駆けめぐった科挙参考書- 大魁四書集注-」(高津孝、鹿児島大学教授)

③ 「談談新發現的宋刻本『南岳稿』」(趙前(中国国家図書館善本特藏部副研究員))

④ 「宋版「崇寧藏」「毗盧藏」残卷考」(沈乃文(北京大学図書館古籍善本部主任))

質疑と応答

まとめ 山崎誠

参加者：計27名

### 2, 「新資料から見た出版文化史」

(「和刻本プロジェクト」と科研費特定領域寧波研究「出版文化班」との共同主催)

期日 2009年11月21日(土)

会場 東京大学法文1号館115番教室

司会兼通訳 陳捷

① Michela BUSSOTTI 「Genealogies in Huizhou history of book」

コメント：高津 孝

② 劉 祥光 「宋代卜算書籍的流通」

コメント：水口 拓寿

③ 入口 敦志 「夢の変容— 天托胎場面における吹き出し型の夢 —」

コメント：高津 孝

④ 袁 慧 「四明雕版印刷及范氏天一閣藏書」

コメント：陳 先行

⑤ 陳 捷 「宋代仏教寺院の出版活動に関する一考察」

コメント：梶浦 晋

質疑と応答

参加者：約30名

## 【研究会・資料調査】

年度毎に分けて日付順に研究会と資料調査を別々に記入して下さい。(研究打合せは記入しないこと。)

### 【平成〇〇年度】

(研究会)

期日、会場、発表者(報告者)とタイトル

(資料調査)

期日、調査先

### 【平成16年度】

(研究会) 9月15日 中国国家図書館、国文研・岡雅彦:「17世紀初期の日本の出版情況」

(資料調査) 9月13日～9月18日 中国国家図書館、北京大学図書館所在の和刻本調査

### 【平成17年度】

(研究会)

5月17日 国文研 陳慶浩(仏・国科研) 「日本における漢文小説と和刻本」

6月13日 国文研 朴現圭(韓・順天郷大学中文科教授) 「漢文小説と日中韓の書籍交流」

1月19日 国文研 ①山田直子「和刻本漢籍の書誌調査と目録化—マニュアル作成上の問題点」

②阿蘇竜太(国文研資料館図書情報係)「和刻本漢籍のデータベース化の諸問題」

2月8日 国文研 長澤孝三(帝京大学教授) 「和刻本漢籍について」

3月22日 国文研 呉格(復旦大学図書館古籍部教授)「關於《中国蔵和刻本刊記図録》的編纂」

(資料調査) 国立公文書館その他で資料調査を実施した。

### 【平成18年度】

4月11日 国文研 ①陳捷(国文研)「これまで二年間の歩み」②山田直子(国文研)「和刻本漢籍データベースの項目について」

6月29日 国文研 ①陳捷(国文研)「和刻本漢籍調査のデータシートについて—和刻本漢籍の実状を把握するために」②山田直子(国文研)「中国と日本の書誌学用語の比較」

7月6日 国文研 呉平(華東師範大学図書館古籍部主任)「盛宣懐と愚斎図書館」

7月25日 国文研 小曾戸洋(北里研究所東医研教授)「和刻本の医書について」

10月4日 国文研 徐興慶(台湾大学教授)「台湾における日本文学と日本漢学の研究状況」

(資料調査) 東洋文庫その他で資料調査を実施した。

### 【平成19年度】

(研究会) 国文研

4月23日 国文研 真柳誠(茨城大学)「漢字文化圏古医籍の特徴と史的傾向—各国版等の異同」

6月13日 北京大学歴史学部 辛徳勇教授:「中国印刷史に関する諸問題」

(資料調査) 静嘉堂文庫などで資料調査を実施した。

### 【平成20年度】

(研究会) 「古典形成の基盤としての中世資源プロジェクト」との合同研究会

7月23日 国文研 ①相田満(国文研)「文字と故事のキャラクター—「朱博」故事をめぐる

「鳥」と「烏」の問題系—」②渡辺信和(同朋大学)「聖徳太子をめぐる人のキャラクター—

学哥論—」③三田明弘(日本女子大)「夷堅志にみる宋代の歴史人物」④勝俣隆(長崎大学)「天人のキャラを通してみた『あめわかみこ(七夕)』の構造」第2部⑤許紅霞(北京大学)「南宋詩僧詩文集の和刻本について」⑥王瑞来(学習院大学)「『礼失而求諸野』—研究経験より和刻本漢籍の価値を語る—」⑦入口敦志(国文研)「和刻本における中国イメージの造型」⑧李慶(金沢大学)「成簣堂文庫所蔵『新雕入篆説文正字』の二三問題について」

(資料調査) 国立公文書館、東京大学、無窮会図書館、大阪府立中央図書館などでの和刻本調査および和刻本文献目録作成のための資料調査を行った。

### 【平成21年度】

(研究会) 平成22年1月15日 国文研 ①陳先行(上海図書館・国文研)「宋版の鑑定に関する問題提起」②尾崎康(元慶応大学教授)「宋版研究における諸問題」

(資料調査) 国立公文書館、東京大学、杏雨書屋、天理図書館などでの和刻本調査および和刻本文献目録作成のための資料調査を行った。